

補平成 23 年（2011 年）測量士補試

験解答

正解まとめ

法令	No.1	No.2	No.3		
	1	4	2		
多角	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8
	2	1	4	3	4
水準	No.9	No.10	No.11	No.12	
	4	4	2	3	
地形	No.13	No.14	No.15		
	5	5	4		
写真	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20
	2	3	2	3	4
編集	No.21	No.22	No.23	No.24	
	5	3	3	2	
応用	No.25	No.26	No.27	No.28	
	4	3	1	2	

選択番号のまとめ

番号	個数	確率 (%)
1	3	11
2	7	25
3	7	25
4	8	29
5	3	11
Σ	28	100

[No. 1]

次の a~e の文は、測量法(昭和 24 年法律第 188 号)の一部を抜粋したものである。(ア) ~ (オ) に入る語句の組み合わせとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

- a. 「測量」とは、土地の測量を言い、地図の調製及び(ア)を含むものとする。
- b. 「基本測量」とは、全ての測量の基礎となる測量で、(イ)の行うものを言う。
- c. 何人も、(ウ)の承諾を得ないで、基本測量の測量標を移転し、毀損、その他その効用を害する行為をしてはならない。
- d. 公共測量は、基本測量又は公共測量の(エ)に基づいて実施しなければならない。
- e. 測量士補は、測量士の作製した(オ)に従い測量に従事する。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1. 測量用写真の撮影	国土地理院	国土地理院	国土地理院の長	測量成果	計画
2. 水域の測量	国土交通省	国土地理院	国土地理院の長	測量計画	作業規程
3. 測量用写真の撮影	国土地理院	国土地理院	国土地理院の長	測量計画	作業規程
4. 水域の測量	国土地理院	都道府県知事	測量成果	計画	
5. 測量用写真の撮影	国土交通省	都道府県知事	測量成果	作業規程	

(解答) [No.1] 測量法

- a. 「測量」とは、土地の測量を言い、地図の調製及び(ア 測量用写真の撮影)を含むものとする。→法第 3 条
- b. 「基本測量」とは、全ての測量の基礎となる測量で、(イ 国土地理院)の行うものを言う。→法第 4 条
- c. 何人も、(ウ 国土地理院の長)の承諾を得ないで、基本測量の測量標を移転し、毀損、その他その効用を害する行為をしてはならない。→法第 22 条
- d. 公共測量は、基本測量又は公共測量の(エ 測量成果)に基づいて実施しなければならない。→法 32 条
- e. 測量士補は、測量士の作製した(オ 計画)に従い測量に従事する。→法第 48 条第 3 項

	ア	イ	ウ	エ	オ
1. 測量用写真の撮影	国土地理院	国土地理院	国土地理院の長	測量成果	計画
2. 水域の測量	国土交通省	国土地理院	国土地理院の長	測量計画	作業規程
3. 測量用写真の撮影	国土地理院	国土地理院	国土地理院の長	測量計画	作業規程
4. 水域の測量	国土地理院	都道府県知事	測量成果	計画	
5. 測量用写真の撮影	国土交通省	都道府県知事	測量成果	作業規程	

- 1) アでは「水域の測量」ではないので、2, 4 はまず消せる。
- 2) イは、「国土地理院」なので、5 は消せる。残りは 1 と 3.
- 3) エは「測量成果」なので、3 は消せ、**正解 1**。オは点検に利用する。

参考 URL <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S24/S24HO188.html>

答え 1

[No. 2]

次の文は、公共測量における現地での作業について述べたものである。

明らかに間違っているものはどれか。

次の中から選べ。

1. 空中写真における数値地形図データ作成の現地調査において、調査事項の接合は現地調査期間中に行い、整理の際に点検を行った。
2. 山頂に埋設してある測量標の調査を行ったが、標石を発見できなかったため、掘り起こした土を埋め戻し、周囲を清掃した。
3. 基準点測量において、周囲を柵で囲まれた土地に在る三角点を使用するため、作業開始前に、その占有者に土地の立ち入りを通知した。
4. 基準点測量において、既知点の現地調査を効率的に行うため、山頂に設置されている既知点については、その観測時に行った。
5. 局地的な大雨による増水事故が増えていることから、気象条件に注意しながら作業を進めた。

(解答) [No.2] 公共測量「作業規程の準則」

1. 空中写真における数値地形図データ作成の現地調査において、調査事項の接合は現地調査期間中に行い、整理の際に点検を行った。⇨準則 163 条 (接合)
調査事項の接合は、現地調査期間中に行い、整理の際にそれぞれ点検を行うものとする。○
2. 山頂に埋設してある測量標の調査を行ったが、標石を発見できなかったため、掘り起こした土を埋め戻し、周囲を清掃した。
⇨ (関係法令等の遵守等)
第 4 条 計画機関及び作業機関並びに作業者は、作業の実施に当たり、財産権、労働、安全、交通、土地利用規制、環境保全、個人情報保護等に関する法令を遵守し、かつ、これらに関する社会的慣行を尊重しなければならない。○
3. 基準点測量において、周囲を柵で囲まれた土地に在る三角点を使用するため、作業開始前に、その占有者に土地の立ち入りを通知した。⇨法 39 条⇨法 15 条
(土地の立入及び通知)
第 15 条 国土地理院の長又はその命を受けた者若しくは委任を受けた者は、基本測量を実施するために必要があるときは、国有、公有又は私有の土地に立ち入ることができる。
読み換え国土地理院の長＝測量計画機関○
4. 基準点測量において、既知点の現地調査を効率的に行うため、山頂に設置されている既知点については、その観測時に行った。⇨準則 27 条
(既知点の現況調査)
第 27 条 既知点の現況調査は、異常の有無等を確認し、基準点現況調査報告書を作成するものとする。既知点の現況調査は新点の選点時に行うことになっているので**間違い**。
5. 局地的な大雨による増水事故が増えていることから、気象条件に注意しながら作業を進めた。
⇨準則 10 条 (安全の確保)

第10条 作業機関は、特に現地での測量作業において、作業者の安全の確保について適切な措置を講じなければならない。○

答え 4

[No. 3]

次の文は、地球の形状と地球上の位置について述べたものである。

明らかに間違っているものはどれか。

次の中から選べ。

1. 楕円体高と標高から、ジオイド高を計算することができる。
2. ジオイド面は、重力の方向に平行であり、地球楕円体面に対して凸凹がある。
3. 地球上の位置は、地球の形に近似した回転楕円体の表面上における地理学的経緯度及び平均海面からの高さで表すことができる。
4. 地心直交座標系の座標値から、当該座標の地点における緯度、経度及び楕円体高が計算できる。
5. 測量法に規定する世界測地系では、地心直交座標系として ITRF94 系に準拠し、回転楕円体として GRS80 を採用している。

(解答) [No.3] 測量法「測量の基準」

1. 楕円体高と標高から、ジオイド高を計算することができる。⇨標高=ジオイドからの高さ、楕円体高=ジオイド高+標高なので、1は正しい。

2. ジオイド面は、重力の方向に平行であり、地球楕円体面に対して凸凹がある。⇨

ジオイド(平均海面)は地球が作り出す重力の等ポテンシャル面の一つである。これは重力の方向に直角である。したがって、間違い。

3. 地球上の位置は、地球の形に近似した回転楕円体の表面上における地理学的経緯度及び平均海面からの高さで表すことができる。⇨法 11 条

第 11 条 基本測量及び公共測量は、次に掲げる測量の基準に従って行わなければならない。

一 位置は、地理学的経緯度及び平均海面からの高さで表示する。ただし、場合により、直角座標及び平均海面からの高さ、極座標及び平均海面からの高さ又は地心直交座標で表示することができる。

二 距離及び面積は、第三項に規定する回転楕円体の表面上の値で表示する。

三 測量の原点は、日本経緯度原点及び日本水準原点とする。ただし、離島の測量その他特別の事情がある場合において、国土院の長の承認を得たときは、この限りでない。

四 前号の日本経緯度原点及び日本水準原点の地点及び原点数値は、政令で定める。○

4. 地心直交座標系の座標値から、当該座標の地点における緯度、経度及び楕円体高が計算できる。⇨○

5. 測量法に規定する世界測地系では、地心直交座標系として ITRF94 系に準拠し、回転楕円体と

して GRS80 を採用している。☞○

答え 2

[No. 4]

図 4 に示すように、点 A において、点 B を基準方向として点 C 方向の水平角 θ を同じ精度で 5 回観測し、表 4 に示す観測結果を得た。

水平角 θ の最確値に対する標準偏差はいくらか。

最も近いものを次の中から選べ。

なお、関数の数値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

表 4

水平角 θ の観測 結果	150°00'07"
	149°59'59"
	149°59'56"
	150°00'05"
	150°00'13"

1. 2.4"
2. 3.0"
3. 3.6"
4. 6.0"
5. 6.7"

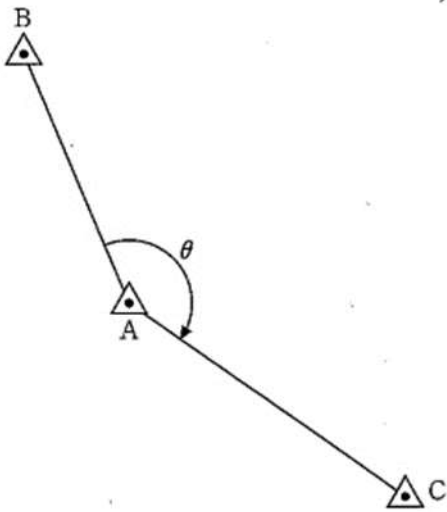


図 4

(解答) [No.4] 水平角の最確値の標準偏差

番号	θ	v	vv
1	7	3	9
2	-1	-5	25
3	-4	-8	64

	4	5	1	1
	5	13	9	81
計		20	0	180
平均		4		
θ_m		150°0'4"		
標準偏差		3"		

解答

$\theta_1=150^\circ00'07''$ 、 $\theta_2=149^\circ59'59''$ 、 $\theta_3=149^\circ59'56''$ 、 $\theta_4=150^\circ00'05''$ 、 $\theta_5=150^\circ00'13''$ とする。

最確値

$$\theta_0 = 150^\circ + \frac{7 - 1 - 4 + 5 + 13}{5} = 150^\circ00'04''$$

残差 $v_1=+3, v_2=-5, v_3=-8, v_4=1, v_5=9, v_1v_1=9,$

残差平方 $v_2v_2=25, v_3v_3=64, v_4v_4=1, v_5v_5=81$

残差平方和 $\Sigma v v = 9 + 25 + 64 + 1 + 81 = 180$

観測値の標準偏差 $m = \sqrt{\frac{180}{5-1}} = 6.7''$

最確値の標準偏差 $M = m / \sqrt{n} = 6.7 / \sqrt{5} = 3''$

1. 2.4"
2. 3.0"
3. 3.6"
4. 6.0"
5. 6.7"

答え 2

[No. 5]

次の文は、GPS 測量機を用いた測量の誤差について述べたものである。(ア) ~ (エ) に入る語句の組み合わせとして最も適当なものはどれか。

次の中から選べ。

GPS 測量機を用いた測量における主要な誤差要因には、GPS 衛星位置や時計などの誤差に加え、GPS 衛星から観測点迄に電波が伝搬する過程で生じる誤差がある。その内、(ア) は周波数に依存するため、2 周波の観測により軽減することができるが、(イ) は周波数に依存せず、2 周波の観測により軽減することができないため、基線解析ソフトウェアで採用している標準値を用いて近似的に補正が行われる。(ウ) 法では、このような誤差に対し、基準局の観測データから作られる補正量などを取得し、解析処理を行うことで、その軽減が図られている。ただし、GPS 衛星から直接到達する電波以外に電波が構造物などに当たって反射したものが、受信される現象である(エ) による誤差は、(ウ) 法によっても補正できないので、選点に当たっては、周辺に構造物がない場所を選ぶなどの注意が必要である。

- | | | | | |
|----|---------|---------|-----------------|----------|
| | ア | イ | ウ | エ |
| 1. | 電離層遅延誤差 | 対流圏遅延誤差 | ネットワーク型 RTK-GPS | マルチパス |
| 2. | 電離層遅延誤差 | 対流圏遅延誤差 | ネットワーク型 RTK-GPS | サイクルスリップ |
| 3. | 電離層遅延誤差 | 対流圏遅延誤差 | 短縮スタティック | マルチパス |
| 4. | 対流圏遅延誤差 | 電離層遅延誤差 | キネマティック | サイクルスリップ |

(解答) [No.5] GNSS

GPS 測量機を用いた測量における主要な誤差要因には、GPS 衛星位置や時計などの誤差に加え、GPS 衛星から観測点迄に電波が伝搬する過程で生じる誤差がある。その内、(ア 電離層遅延誤差)は周波数に依存するため、2 周波の観測により軽減することができるが、(イ 対流圏遅延誤差)は周波数に依存せず、2 周波の観測により軽減することができないため、基線解析ソフトウェアで採用している標準値を用いて近似的に補正が行われる。(ウ ネットワーク型 RTK-GPS) 法では、このような誤差に対し、基準局の観測データから作られる補正量などを取得し、解析処理を行うことで、その軽減が図られている。

ただし、GPS 衛星から直接到達する電波以外に電波が構造物などに当たって反射したものが、受信される現象である (エ マルチパス) による誤差は、(ウ ネットワーク型 RTK-GPS) 法によっても補正できないので、選点に当たっては、周辺に構造物がない場所を選ぶなどの注意が必要である。

	ア	イ	ウ	エ
1.	電離層遅延誤差	対流圏遅延誤差	ネットワーク型 RTK-GPS	マルチパス
2.	電離層遅延誤差	対流圏遅延誤差	ネットワーク型 RTK-GPS	サイクルスリップ
3.	電離層遅延誤差	対流圏遅延誤差	短縮スタティック	マルチパス
4.	対流圏遅延誤差	電離層遅延誤差	キネマティック	サイクルスリップ
5.	対流圏遅延誤差	電離層遅延誤差	キネマティック	マルチパス

- 1) アは「電離層遅延誤差」なので、4、5は消せる。
- 2) ウは「ネットワーク型 RTK-GPS」なので、3は消せる。
- 3) エは「マルチパス」なので、2は消せる。

答え 1

[No. 6]

トータルステーションを用いた基準点測量において、図 6 に示すように既知点 A から既知点 B を基準に水平角を観測して新点 C の方向角を求めようとしたところ、既知点 A から既知点 B への視通が確保できなかった。そのため、既知点 B の近傍に偏心点 P を設けて、水平角 T'、偏心距離 e 及び偏心角 ϕ の観測を行い、表 6 の観測結果を得た。 $\angle BAC$ (T)はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、既知点 AB 間の距離 $S=2,000.000\text{m}$ である。

また、角度 1 ラジアンは、 $2'' \times 10^5$ とする。

なお、関数の数値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

1. $53^\circ 21'33''$
2. $53^\circ 22'03''$
3. $53^\circ 23'13''$
4. $53^\circ 23'43''$
5. $53^\circ 24'13''$

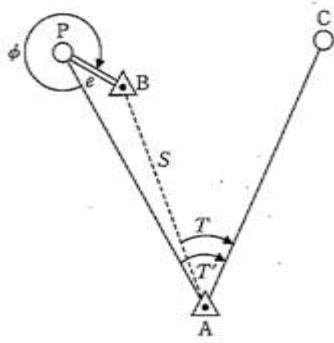


図6

表6

観測結果	
T'	53° 25'23"
e	2.000m
φ	330° 00'00"

1. 53° 21'33"
2. 53° 22'03"
3. 53° 23'13"
4. 53° 23'43"
5. 53° 24'13"

(解答) [No.6] 偏心観測

正弦比例式より

$$\frac{\sin x}{e} = \frac{\sin(360^\circ - \phi)}{S}$$

$$\sin x = \frac{e \cdot \sin(360^\circ - \phi)}{S}$$

$$\sin x = \frac{2 \cdot \sin(30^\circ)}{2,000} = 0.0005$$

$$x = 0.0005 \times 2 \times 10^5 = 100 = 1'40''$$

$$\therefore T = T' - x = 53^\circ 25'23'' - 1'40'' = 53^\circ 23'43''$$

1. 53° 21'33"
2. 53° 22'03"
3. 53° 23'13"
4. 53° 23'43"
5. 53° 24'13"

答え 4

[No. 7]

次の文は、公共測量におけるトータルステーション及びデータコレクタを用いた1級及び2級基準

点測量の作業内容について述べたものである。
明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 器械高及び反射鏡高は観測者が入力を行うが、観測値は自動的にデータコレクタに記録される。
2. データコレクタに記録された観測データは、速やかに他の媒体にバックアップした。
3. 距離の計算は、標高を使用し、ジオイド面上で値を算出した。
4. 観測は、水平角観測、鉛直角観測及び距離測定を同時に行った。
5. 水平角観測の必要対回数に合わせ、取得した鉛直角観測値及び距離測定値を全て採用し、その平均値を用いた。

(解答) [No.7] 測量法 (測量の基準等)

1. 器械高及び反射鏡高は観測者が入力を行うが、観測値は自動的にデータコレクタに記録される。
☑正しい
 2. データコレクタに記録された観測データは、速やかに他の媒体にバックアップした。☑正しい。
 3. 距離の計算は、標高を使用し、ジオイド面上で値を算出した。☑
(測量の基準) 測量法
- 第 11 条** 基本測量及び公共測量は、次に掲げる測量の基準に従って行わなければならない。
- 一 位置は、地理学的経緯度及び平均海面からの高さで表示する。ただし、場合により、直角座標及び平均海面からの高さ、極座標及び平均海面からの高さ又は地心直交座標で表示することができる。
 - 二 距離及び面積は、第三項に規定する回転楕円体の表面上の値で表示する。したがって**間違い**。
4. 観測は、水平角観測、鉛直角観測及び距離測定を同時に行った。☑正しい。
 5. 水平角観測の必要対回数に合わせ、取得した鉛直角観測値及び距離測定値を全て採用し、その平均値を用いた。☑正しい。

答え 3

[No. 8]

次の文は、公共測量における GPS 測量機を用いた 1 級及び 2 級基準点測量の作業内容について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 作業計画の工程において、後続作業における利便性を考慮して地形図上で新点の概略位置を決定し、平均計画図を作成した。
2. 選点の工程において、現地に赴き新点を設定する予定位置の上空視界の状況確認などを行い、測量標の設置許可を得た上で新点の設置位置を確認し、選点図を作成した。さらに、選点図に基づき、新点の精度などを考慮して平均図を作成した。
3. 平均図に基づき、効率的な観測を行うための観測計画を立案し、観測図を作成した。観測図の作成においては、異なるセッションにおける観測値を用いて環閉合差や重複辺の較差による点検が行えるように考慮した。
4. 観測準備中に、GPS 測量機のバッテリー不良が判明したため、自動車を観測点の近傍に駐車させ、自動車から電源を確保して観測を行った。
5. 観測後に点検計算を行ったところ、環閉合差について許容範囲を超過したため、再測を行った。

(解答) [No.8] GNSS

1. 作業計画の工程において、後続作業における利便性を考慮して地形図上で新点の概略位置を決定し、平均計画図を作成した。◀○
2. 選点の工程において、現地に赴き新点を設定する予定位置の上空視界の状況確認などを行い、測量標の設置許可を得た上で新点の設置位置を確認し、選点図を作成した。さらに、選点図に基づき、新点の精度などを考慮して平均図を作成した。◀○
3. 平均図に基づき、効率的な観測を行うための観測計画を立案し、観測図を作成した。観測図の作成においては、異なるセッションにおける観測値を用いて環閉合差や重複辺の較差による点検が行えるように考慮した。◀○
4. 観測準備中に、GPS 測量機のバッテリー不良が判明したため、自動車を観測点の近傍に駐車させ、自動車から電源を確保して観測を行った。◀バッテリーなどはあらかじめ点検して置くべきものである。観測点付近に自動車を止めるとマルチパスの原因になるかもしれない。◀間違い。
5. 観測後に点検計算を行ったところ、環閉合差について許容範囲を超過したため、再測を行った。◀○

答え 4

[No. 9]

図9に示すように、既知点A,B,C及びDから新点Eの標高を求めるために水準測量を実施し、表9-1に示す観測結果を得た。新点Eの標高の最確値はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。ただし、既知点の標高は表9-2のとおりとする。

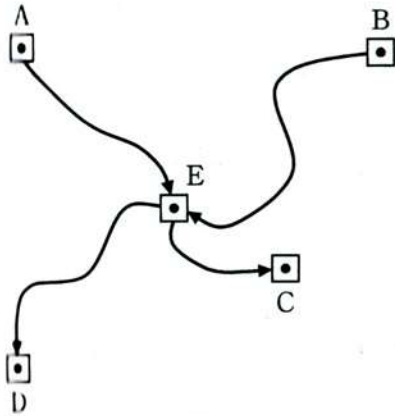


図9

表 9-1

観測結果		
路線	観測距離	観測高低差
A→E	2 k m	-2.139m
B→E	3 k m	-0.688m
E→C	1 k m	+3.069m
E→D	2 k m	-1.711m

表 9-2

既知点成果	
既知点	標高
A	5.153m
B	3.672m
C	6.074m
D	1.290m

1. 2.995m
2. 2.998m
3. 3.001m
4. 3.003m
5. 3.005m

(解答) [No.9] X型平均

	d=距離	P=1/d	標高	高低差	標高 E	dh	pdh
A→E	2	0.5	5.153	-2.139	3.014	0.014	0.007
B→E	3	0.333333	3.672	-0.688	2.984	-0.016	-0.00533
E→C	1	1	6.074	3.069	3.005	0.005	0.005
E→D	2	0.5	1.29	-1.711	3.001	0.001	0.0005
計		2.333333					0.007167

観測標高

$$h_{A \rightarrow E} = 5.153 - 2.139 = 3.014\text{m}$$

$$h_{B \rightarrow E} = 3.672 - 0.688 = 2.984\text{m}$$

$$h_{E \rightarrow C} = 6.074 - 3.069 = 3.005\text{m}$$

$$h_{E \rightarrow D} = 1.290 + 1.711 = 3.001\text{m}$$

重量

$$p_1 : p_2 : p_3 : p_4 = \frac{1}{2} : \frac{1}{3} : 1 : \frac{1}{2} = 3 : 2 : 6 : 3$$

$$P = [p] = 3 + 2 + 6 + 3 = 14$$

$$h_E = \frac{p_1 h_{A \rightarrow E} + p_2 h_{B \rightarrow E} + p_3 h_{E \rightarrow C} + p_4 h_{E \rightarrow D}}{p_1 + p_2 + p_3 + p_4}$$
$$= 3.000 + \frac{0.014 \times 3 - 0.016 \times 2 + 0.005 \times 6 + 0.001 \times 3}{14}$$
$$= 3.000 + \frac{0.043}{14} = 3.000 + 0.003 = 3.003\text{m}$$

1. 2.995m
2. 2.998m
3. 3.001m
4. 3.003m
5. 3.005m

答え 4

[No. 10]

次の文は、電子レベル及びバーコード標尺について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. バーコード標尺の目盛を自動で読み取って高低差を求める電子レベルが使用されるようになり、観測者による個人誤差が小さくなるとともに、作業能率が向上するようになった。
2. 公共測量における 1 級水準測量及び 2 級水準測量では、円形水準器及び視準線の点検調整並びにコンペンセータの点検を観測着手前及び観測期間中おおむね 10 日ごとに行う必要がある。
3. バーコード標尺付属の円形水準器は、鉛直に立てたときに、円形気泡が中心にくるように点検調整をする必要がある。
4. 公共測量における 1 級水準測量において、標尺の下方 20 cm 以下を読定してはならない理由は、地球表面のために生ずる 2 点間の鉛直線の微小な差（球差）の影響を少なくするためである。
5. 電子レベル内部の温度上昇を防ぐため、観測に際しては、日傘などで直射日光が当たらないようにすべきである。

(解答) [No.10] 電子レベルとバーコード標尺

1. バーコード標尺の目盛を自動で読み取って高低差を求める電子レベルが使用されるようになり、観測者による個人誤差が小さくなるとともに、作業能率が向上するようになった。☞正しい。
2. 公共測量における 1 級水準測量及び 2 級水準測量では、円形水準器及び視準線の点検調整並びにコンペンセータの点検を観測着手前及び観測期間中おおむね 10 日ごとに行う必要がある。☞正しい。

3. バーコード標尺付属の円形水準器は、鉛直に立てたときに、円形気泡が中心にくるように点検調整をする必要がある。☞正しい。
4. 公共測量における1級水準測量において、標尺の下方20cm以下を読定してはならない理由は、地球表面のために生ずる2点間の鉛直線の微小な差（球差）の影響を少なくするためである。→**準則第64条第2項第7号**
地面に近づくと空気による屈折（気差）が大きくなるためなので、4は間違い。
5. 電子レベル内部の温度上昇を防ぐため、観測に際しては、日傘などで直射日光が当たらないようにすべきである。☞正しい。

答え 4

[No. 11]

次の文は、公共測量における水準測量を実施するときの留意すべき事項について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 新点の観測は、永久標識の設置後24時間以上経過してから行う。
2. 標尺は、2本1組とし、往路の出発点に立てる標尺と、復路の出発点に立てる標尺は、同じにする。
3. 1級水準測量においては、観測の開始時、終了時及び固定点到着時ごとに、気温を1℃単位で測定する。
4. 水準点間のレベルの設置回数は（測点数）は偶数にする。
5. 視準距離は等しく、かつ、レベルはできる限り両標尺を結ぶ直線状に設置する。

（解答）No.11 水準測量の観測

1. 新点の観測は、永久標識の設置後24時間以上経過してから行う。☞○
2. 標尺は、2本1組とし、往路の出発点に立てる標尺と、復路の出発点に立てる標尺は、同じにする。
☞**準則第64条第2項第3号**標尺は2本1組とし、往路と復路との観測において標尺を交換するので、2は間違い。
3. 1級水準測量においては、観測の開始時、終了時及び固定点到着時ごとに、気温を1℃単位で測定する。☞○
4. 水準点間のレベルの設置回数は（測点数）は偶数にする。☞○
5. 視準距離は等しく、かつ、レベルはできる限り両標尺を結ぶ直線状に設置する。☞○

答え 2

[No.12]

図 12 に示すように、水準点 A から固定点(1)、(2)および(3)を経由する水準点 B までの路線で、公共測量における 1 級水準測量を行い、表 12 に示す観測結果を得た。再測すべきと考えられる区間番号はどれか。次の中から選べ。

ただし、観測往復差の較差の許容範囲は、S を km 単位で表した片道の観測距離としたとき、 $2.5m\sqrt{S}$ とする。

なお、関数の数値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

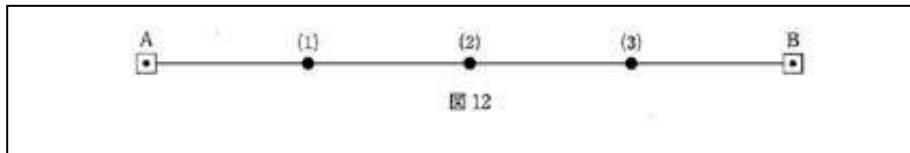


表 12

区間番号	観測区間	観測距離	往方向	復方向
①	A~(1)	500m	3.2249m	-3.2239m
②	(1)~(2)	500m	-5.6652m	+5.6655m
③	(2)~(3)	500m	-2.3569m	+2.3550m
④	(3)~B	500m	+4.1023m	-4.1034m

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. 再測の必要ない

(解答) No.12 閉合差

区間番号	観測区間	観測距離	往方向	復方向	較差(m)	制限値(mm)	
①	A~(1)	500	3.2249	-3.2239	0.001	1.767767	○
②	(1)~(2)	500	-5.6652	5.6655	0.0003	1.767767	○
③	(2)~(3)	500	-2.3569	2.355	-0.0019	1.767767	×
④	(3)~B	500	4.1023	-4.1034	-0.0011	1.767767	○

⑤全体 A~B 距離 2 km 往=-0.6949 復=0.6932 較差=1.7mm < 制限値=3.5mm ○

③を再測

1. ①

2. ②
3. ③
4. ④
5. 再測の必要ない

答え 3

[No. 13]

トータルステーションを用いた縮尺 1/1,000 の地形図作成において、傾斜が一定な直線道路上にある点 A の標高を測定したところ 66.6m であった。一方、同じ直線道路上の点 B の標高は、59.7m であり、点 A から点 B の水平距離 54.0m であった。
このとき、点 A から点 B を結ぶ直線道路とこれを横断する標高 62m の等高線との交点は、この地形図上で点 A から何 cm 地点を横断するか。最も近いものを次の中から選べ。

1. 1.8 c m
2. 2.0 c m
3. 2.8 c m
4. 3.2 c m
5. 3.6 c m

(解答) [No.13] 等高線位置

点 A と B の高低差 $\Delta h_{AB} = 66.6 - 59.7 = 6.9\text{m}$

点 A と B の距離 $l_{AB} = 54\text{m}$

標高 62m と点 B の標高差 $\Delta h_{B-62} = 62 - 59.7 = 2.3\text{m}$

標高 62m の点 B からの距離は $54-X$ なので、三角形の比例から

$$\frac{54-X}{\Delta h_{B-62}} = \frac{54}{\Delta h_{AB}}$$

$$\frac{54-X}{2.3\text{m}} = \frac{54}{6.9\text{m}}$$

$$54 - X = 18$$

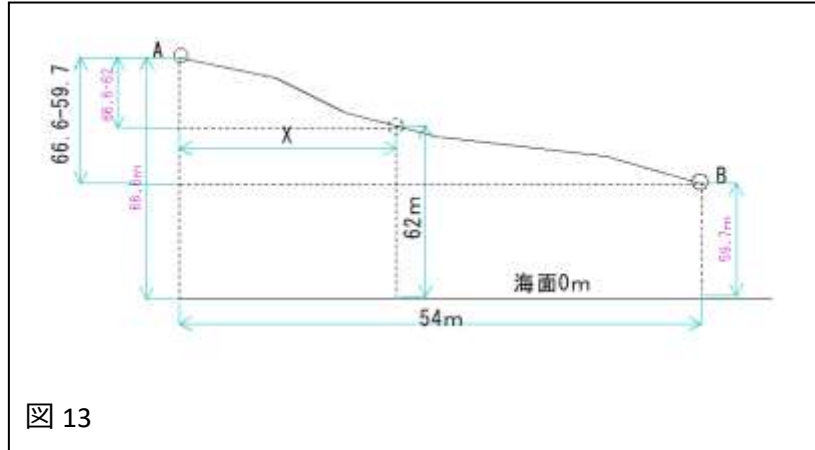
$$\therefore X = 36\text{m}$$

縮尺 1/1,000 図上では

$$\therefore x\text{cm} = \frac{X\text{m}}{1,000} = \frac{36\text{m}}{1,000} = 3.6\text{cm}$$

1. 1.8 c m
2. 2.0 c m
3. 2.8 c m
4. 3.2 c m
5. 3.6 c m

答え 5



[No. 14]

次の文は、地形測量について述べたものである。(ア)～(エ)に入る語句の組み合わせとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

(ア)の方法のうち、携帯型パーソナルコンピュータなどの図形処理機能を用いて、現地で図形表示しながら計測及び編集を行う方式を、オンライン方式と言い、特に(イ)と電子平板を用いた方式が一般的である。これらの方法により得られたデータは、通常(ウ)形式であり、編集済データの端点の接続は、(エ)により点検することができる。

	ア	イ	ウ	エ
1.	同時調整	電子レベル	画像	電子基準点
2.	同時調整	トータルステーション	ベクタ	プログラム
3.	細部測量	電子レベル	ベクタ	電子基準点
4.	細部測量	トータルステーション	画像	電子基準点
5.	細部測量	トータルステーション	ベクタ	プログラム

(解答) No.14 地形測量

(ア 細部測量)の方法のうち、携帯型パーソナルコンピュータなどの図形処理機能を用いて、現地で図形表示しながら計測及び編集を行う方式を、オンライン方式と言い、特に(イ トータルス

テーション) と電子平板を用いた方式が一般的である。これらの方法により得られたデータは、通常 (ウ ベクタ) 形式であり、編集済データの端点の接続は、(エ プログラム) により点検することができる。

	ア	イ	ウ	エ
1.	同時調整	電子レベル	画像	電子基準点
2.	同時調整	トータルステーション	ベクタ	プログラム
3.	細部測量	電子レベル	ベクタ	電子基準点
4.	細部測量	トータルステーション	画像	電子基準点
5.	細部測量	トータルステーション	ベクタ	プログラム

- 1) アは「細部測量」なので、1,2は消える。
- 2) イは「トータルステーション」なので、3は消える。
- 3) ウは「ベクタ」なので、4は消える。エは点検項目になる。

答え 5

[No. 15]

次の文は、数値地形モデル (DTM) の特徴について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

ただし、ここでDTMとは、等間隔の格子の代表点 (格子点) の標高を表したデータとする。

1. DTM から地形の断面図を作成することができる。
2. DTM を用いて水害による浸水範囲のシミュレーションを行うことができる。
3. DTM の格子間隔が小さくなるほど詳細な地形を表現できる。
4. DTM は等高線データから作成することができないが、等高線データは DTM から作成することができる。
5. DTM を使って数値空中写真を正射変換し、正射投影画像を作成することができる。

(解答) No.15 DTM

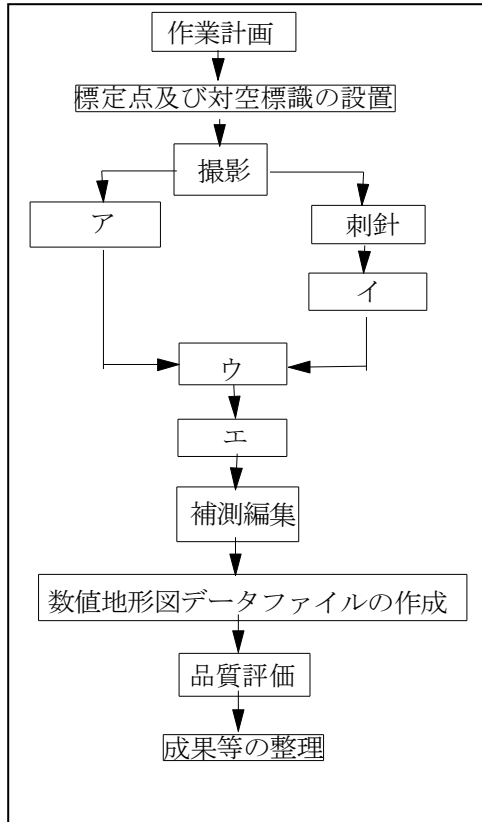
1. DTM から地形の断面図を作成することができる。⇨正しい。
2. DTM を用いて水害による浸水範囲のシミュレーションを行うことができる。⇨正しい。
3. DTM の格子間隔が小さくなるほど詳細な地形を表現できる。⇨正しい。
4. DTM は等高線データから作成することができないが、等高線データは DTM から作成することができる。⇨DTM は等高線データから作成でき、逆もできるので、間違い。

5. DTM を使って数値空中写真を正射変換し、正射投影画像を作成することができる。☑正しい。

答え 4

[No. 16]

図 16 は、空中写真測量による数値地形図データ作成の標準的な作業工程を示したものである。(ア)～(エ)に入る工程別作業区分の組み合わせとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。



- | | ア | イ | ウ | エ |
|----|------|--------|--------|--------|
| 1. | 数値編集 | 空中三角測量 | GPS 測量 | 数値編集 |
| 2. | 現地調査 | 空中三角測量 | 数値図化 | 数値編集 |
| 3. | 数値編集 | GPS 測量 | 数値図化 | 空中三角測量 |
| 4. | 数値編集 | GPS 測量 | 空中三角測量 | 数値図化 |
| 5. | 現地調査 | 空中三角測量 | 数値編集 | 数値図化 |

(解答) [No.16] 写真測量の作業工程

- | | ア | イ | ウ | エ |
|----|------|---------------|--------|------|
| 1. | 数値編集 | <u>空中三角測量</u> | GPS 測量 | 数値編集 |

2. 現地調査 空中三角測量 数値図化 数値編集
 3. ~~数値編集~~ ~~GPS 測量~~ ~~数値図化~~ ~~空中三角測量~~
 4. ~~数値編集~~ ~~GPS 測量~~ ~~空中三角測量~~ ~~数値図化~~
 5. ~~現地調査~~ 空中三角測量 数値編集 数値図化

- 1) アは「現地調査」なので、1,3,4は消える。正解は2か5。
 2) ウは「数値図化」なので、5が消える。

答え 2

[No. 17]

画面距離 10.5 cm のデジタル航空カメラを使用して、撮影高度 2,800 m で数値空中写真の撮影を行った。このときの撮影基準面での地上画素寸法はいくらか。最も近いものを、次の中から選べ。ただし、撮影基準面の標高は 0 m とし、デジタル航空カメラの撮像面での画素寸法は $9\mu\text{m}$ とする。

1. 18 cm
2. 21 cm
3. 24 cm
4. 27 cm
5. 30 cm

(解答) [No.17] 地上画素寸法

- 1) デジタル画像の縮尺

$$1/m_b = f/H = 10.5\text{cm}/2,800\text{m} = 1/26,666$$

- 2) 地上画素寸法

$$\Delta = \delta \times m_b = 9\mu\text{m} \times 26,666 = 24\text{cm}$$

1. 18 cm
2. 21 cm
3. 24 cm
4. 27 cm
5. 30 cm

答え 3

[No. 18]

画面の大きさ $23\text{cm} \times 23\text{cm}$ のフィルムカメラを用いて、撮影縮尺 1/8,000、航空機の対地速度 200km/h 、隣接空中写真間の重複度 60% で平坦な土地の鉛直空中写真を撮影した。このときのシャッター間隔はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、航空機は風などの影響は受けず、一定の対地速度で飛行するものとする。

1. 6 秒
2. 13 秒
3. 19 秒
4. 24 秒
5. 36 秒

(解答) [No.18] シャッター間隔

- 1) 撮影縮尺 $1/m_b = 1/8,000$
- 2) 主点基線長 $b = s(1 - p) = 23\text{cm}(1 - 0.6) = 9.2\text{cm}$
- 3) 撮影基線長 $B = b \times m_b = 9.2\text{cm} \times 8,000 = 736\text{m}$
- 4) 対地速度 $V\text{km/h} = 200 \text{ km/h} \rightarrow v\text{m/sec} = V/3.6 = 200/3.6 = 55.56\text{m/sec}$
- 5) シャッター間隔 $t = \frac{B(\text{m})}{v(\text{m/sec})} = \frac{736}{55.56} = 13.2\text{sec}$

1. 6 秒
2. 13 秒
3. 19 秒
4. 24 秒
5. 36 秒

答え 2

[No. 19]

次の文は、公共測量における空中写真測量による図化について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 各モデルの図化範囲は、原則として、パスポイントで囲まれた区域内でなければならない。
2. 等高線の図化は、高さを固定し、メスマークを常に接地させながら行うが、道路縁の図化は、高さを調整しながらメスマークを常に接地させて行う。
3. 陰影、ハレーションなどの障害により図化できない箇所がある場合は、その部分の空中三角測量を再度実施しなければならない。
4. 標高点の測定は2回行い、測定値の較差が許容範囲を超える場合は、更に1回の測定を行い、3回の測定値の平均値を採用する。
5. 傾斜が緩やかな地形において、計曲線及び主曲線では地形を適切に表現できない場合は、補助曲線を取得する。

(解答) [No.19] 写真測量の図化

1. 各モデルの図化範囲は、原則として、パスポイントで囲まれた区域内でなければならない。⇨正しい
2. 等高線の図化は、高さを固定し、メスマークを常に接地させながら行うが、道路縁の図化は、高さを調整しながらメスマークを常に接地させて行う。⇨正しい。
3. 陰影、ハレーションなどの障害により図化できない箇所がある場合は、その部分の空中三角測量を再度実施しなければならない。⇨図化できない箇所は、現地で TS で計測する。空中三角測量は全く関係ないので、**間違い**。
4. 標高点の測定は2回行い、測定値の較差が許容範囲を超える場合は、更に1回の測定を行い、3回の測定値の平均値を採用する。⇨正しい。
5. 傾斜が緩やかな地形において、計曲線及び主曲線では地形を適切に表現できない場合は、補助曲線を取得する。⇨正しい。

答え 3

[No. 20]

図 20 は、公共測量の写真地図（数値空中写真を正射変換した正射投影画像（モザイクしたものを含む。））作成の標準的な作業工程を示したものである。（ア）～（エ）に入る工程別作業区分の組み合わせとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

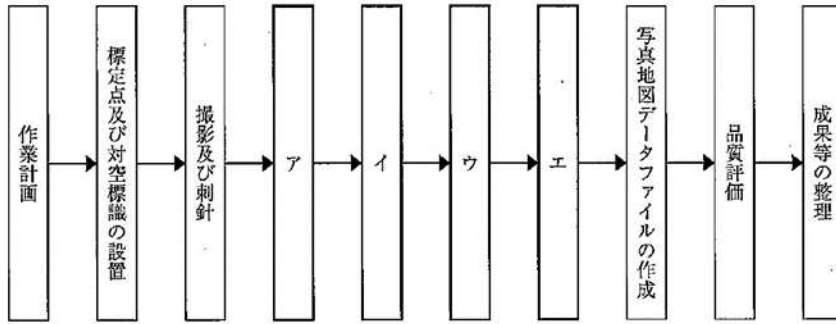


図 20

	ア	イ	ウ	エ
1.	現地調査	数値地形モデルの作成	モザイク	正射変換
2.	空中三角測量	正射変換	モザイク	数値地形モデルの作成
3.	現地調査	空中三角測量	数値地形モデルの作成	モザイク
4.	空中三角測量	数値地形モデルの作成	正射変換	モザイク
5.	正射変換	空中三角測量	モザイク	現地調査

(解答) [No.20] 写真測量の作業工程

	ア	イ	ウ	エ
1.	現地調査	数値地形モデルの作成	モザイク	正射変換
2.	空中三角測量	正射変換	モザイク	数値地形モデルの作成
3.	現地調査	空中三角測量	数値地形モデルの作成	モザイク
4.	空中三角測量	数値地形モデルの作成	正射変換	モザイク
5.	正射変換	空中三角測量	モザイク	現地調査

- 1) アは「空中三角測量」なので、2,4が残る。
- 2) イは「数値地形モデルの作成」なので、2は消える。残り4のみ。ウ、エは点検項目、

答え 4

[No. 21]

次の文は、地図編集の原則について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 注記は、地図に描かれているものをわかりやすく示すため、その対象により文字の種類、書体、字列などに一定の規範を持たせる。
2. 有形線（河川、道路など）と無形線（等高線、境界など）とが近接し、どちらかを転位する場合、は無形線を転位する。
3. 取捨選択は、編集図の目的を考慮して行い、重要度の高い対象物を省略することのないように

する。

4. 山間部の細かい屈曲のある等高線を総合描示するときは、地形の特徴を考慮する。
5. 編集の基となる地図（基図）は、新たに作成する地図（編集図）の縮尺より小さく、かつ最新のものを使用する。

（解答）〔No.21〕 地図編集

1. 注記は、地図に描かれているものをわかり易く示すため、その対象により文字の種類、書体、字列などに一定の規範を持たせる。☞正しい。
2. 有形線（河川、道路など）と無形線（等高線、境界など）とが近接し、どちらかを転位する場合、は無形線を転位する。☞有形線と無形線とでは、無形線を転位するので、正しい。
3. 取捨選択は、編集図の目的を考慮して行い、重要度の高い対象物を省略することのないようにする。☞正しい。
4. 山間部の細かい屈曲のある等高線を総合描示するときは、地形の特徴を考慮する。☞正しい。
5. 編集の基となる地図（基図）は、新たに作成する地図（編集図）の縮尺より小さく、かつ最新のものを使用する。☞編集の基となる地図（基図）は新たに作成する地図より縮尺が同じか、大きく、最新のものを使用するので、間違い。

答え 5

〔No. 22〕

次の文は、地図投影について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 平面上に描かれた地図において、距離（長さ）、方位（角度）及び面積を同時に正しく表すことはできない。
2. 投影法は、地図の目的、地域、縮尺に合った適切なものを選択する必要がある。
3. 平面直角座標系（平成14年国土交通省告示第9号）において、座標系のY軸は、座標は、座標系原点において子午線に一致する軸とし、真北に向かう値を正とする。また、座標系にX軸は、座標系原点において座標系のY軸に直交する軸とし、真東に向かう値を正とする。
4. 投影法は、投影面の種類によって分類すると、方位図法、円錐図法及び円筒図法に大別される。
5. コンピュータの画面に地図を表示したり、プリンタを使って紙に地図を出力する場合も、投影法について考慮する必要がある。

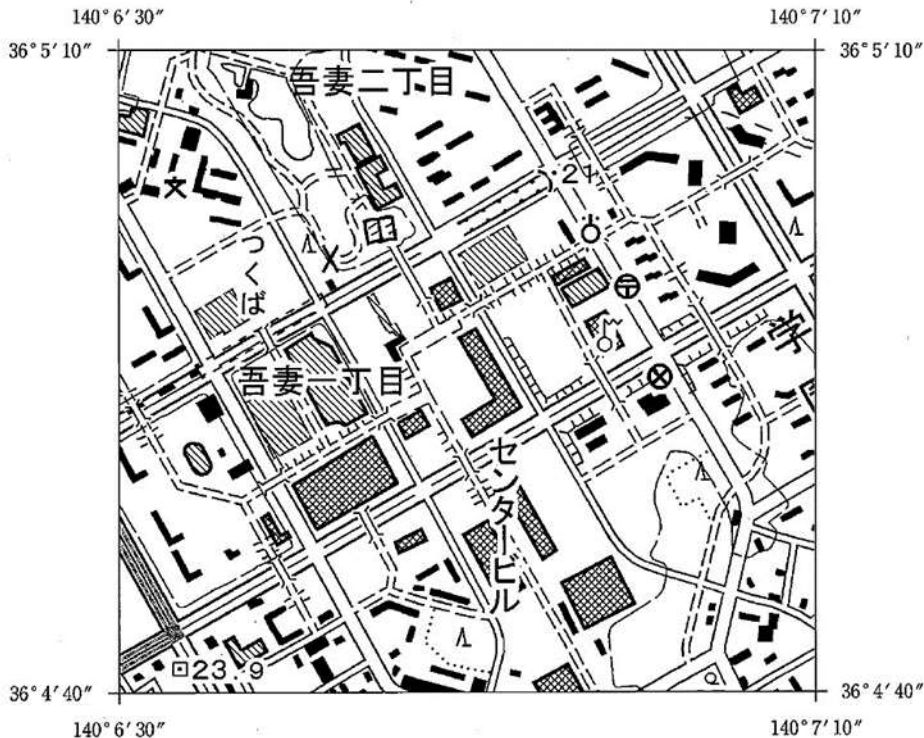
(解答) No.22 地図編集「地図投影」

1. 平面上に描かれた地図において、距離（長さ）、方位（角度）及び面積を同時に正しく表すことはできない。☞○
2. 投影法は、地図の目的、地域、縮尺に合った適切なものを選択する必要がある。☞○
3. 平面直角座標系（平成 14 年国土交通省告示第 9 号）において、座標系の Y 軸は、座標は、座標系原点において子午線に一致する軸とし、真北に向かう値を正とする。また、座標系に X 軸は、座標系原点において座標系の Y 軸に直交する軸とし、真東に向かう値を正とする。☞**X 軸は子午線方向、北向き、真北に向かう値をプラスとする。Y 軸は X 軸に直角で東の方向になるので、3 は間違い。**
4. 投影法は、投影面の種類によって分類すると、方位図法、円錐図法及び円筒図法に大別される。☞○
5. コンピュータの画面に地図を表示したり、プリンタを使って紙に地図を出力する場合も、投影法について考慮する必要がある。☞○

答え 3

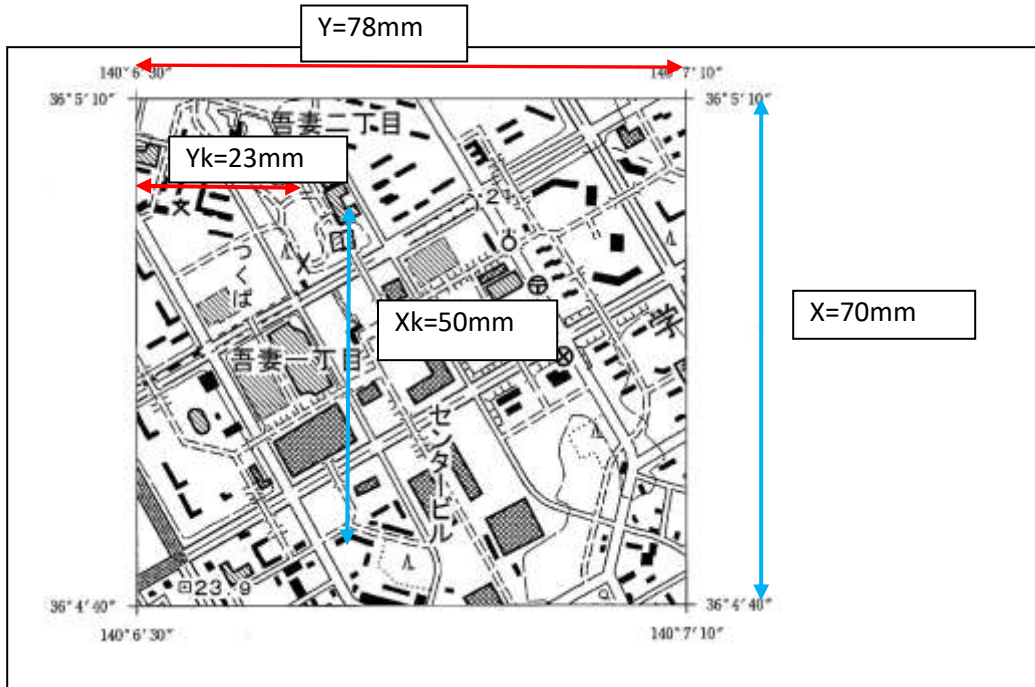
[No. 23]

図 23 は、国土地理院発行の 1/25,000 地形図の一部（縮尺を変更、一部を改変）である。この図にある交番の建物の経緯度はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。ただし、図 23 の四隅に表示した数値は、経緯度を示す。



- | | 緯度 | 経度 |
|----|---------------|----------------|
| 1. | 北緯 36° 04'53" | 東経 140° 07'01" |
| 2. | 北緯 36° 04'55" | 東経 140° 07'01" |
| 3. | 北緯 36度 04'59" | 東経 140° 06'42" |
| 4. | 北緯 36度 05'01" | 東経 140° 06'57" |
| 5. | 北緯 36度 05'04" | 東経 140° 06'42" |

(解答) [No.23] 読図



緯度方向の方眼の長さ $X = 50\text{mm}$

緯度方向の左下隅から交番までの長さ $X_k = 50\text{mm}$

経度方向の方眼の長さ $Y = 78\text{mm}$

経度方向の左下隅から交番までの距離 $Y_k = 23\text{mm}$

方眼の緯度差 $= 310'' - 280'' = 30''$

方眼の経度差 $= 430'' - 390'' = 40''$

交番の緯度 $= 36^\circ 04' 40'' + 50\text{mm}/70\text{mm} \times 30'' = 36^\circ 04' 40'' + 21'' = 36^\circ 05' 01''$

交番の経度 $= 140^\circ 06' 30'' + 23\text{mm}/78\text{mm} \times 40'' = 140^\circ 06' 30'' + 12'' = 140^\circ 06' 42''$

緯度 経度

- | | | |
|----|---------------|----------------|
| 1. | 北緯 36° 04'53" | 東経 140° 07'01" |
| 2. | 北緯 36° 04'55" | 東経 140° 07'01" |
| 3. | 北緯 36度 04'59" | 東経 140° 06'42" |
| 4. | 北緯 36度 05'01" | 東経 140° 06'57" |
| 5. | 北緯 36度 05'04" | 東経 140° 06'42" |

一番近いには3なので、

答え 3

[No. 24]

GIS は、地理的位置を手掛かりに、位置に関する情報をもったデータ（地理空間情報）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする情報システムである。

次の文は、様々な地理空間情報と GIS を組み合わせることによってできることについて述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 地中に埋設されている下水道管の位置、経路、埋設年、種類、口径などのデータを基盤地図情報に重ね合わせて、下水道を管理するシステムを構築する。
2. 地球観測衛星「だいち」で観測された画像から市町村の行政界を抽出し、市町村合併の変遷を視覚化するシステムを構築する。
3. コンビニエンスストアの位置情報及び居住者の数に関する属性をもった建物データを利用し、任意の地点から指定した距離を半径とする円内に店舗されているコンビニエンスストアの数や居住人口を計算することで、新たにコンビニエンスストアの店舗計画を支援する。
4. 植生分類ごとにポリゴン化された植生域にカモシカが生息しているかを分析する。
5. 構造化された道路中心線データを利用し、火災現場の位置座標を入力することにより、消防署から火災現場までの最短ルートを表示し、到達時間を計算するシステムを構築する。

(解答) [No.24] 地図編集

1. 地中に埋設されている下水道管の位置、経路、埋設年、種類、口径などのデータを基盤地図情報に重ね合わせて、下水道を管理するシステムを構築する。◇正しい。
2. 地球観測衛星「だいち」で観測された画像から市町村の行政界を抽出し、市町村合併の変遷を視覚化するシステムを構築する。◇空中写真や衛星写真では境界線を抽出できないので、2は間違い。
3. コンビニエンスストアの位置情報及び居住者の数に関する属性をもった建物データを利用し、任意の地点から指定した距離を半径とする円内に店舗されているコンビニエンスストアの数や居住人口を計算することで、新たにコンビニエンスストアの店舗計画を支援する。◇正しい。
4. 植生分類ごとにポリゴン化された植生域にカモシカが生息しているかを分析する。◇正しい。
5. 構造化された道路中心線データを利用し、火災現場の位置座標を入力することにより、消防署から火災現場までの最短ルートを表示し、到達時間を計算するシステムを構築する。◇正しい。

答え 2

[No. 25]

図 25 に示すように、曲線半径 $R=600\text{m}$ 、交角 $\alpha=90^\circ$ で設置されている、点 O を中心とする円曲

線から成る現在の道路（以下「現道路」という。）を改良し、点 O' を中心とする円曲線から成る新しい道路（以下「新道路」という。）を建設することにした。

新道路の交角 $\beta = 60^\circ$ としたとき、新道路 $BC \sim EC'$ の路線長はいくらか。

最も近いものを次の中から選べ。

ただし、新道路の起点 BC 及び交点 IP の位置は、現道路と変わらないものとし、円周率は 3.14 とする。

なお、関数の数値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

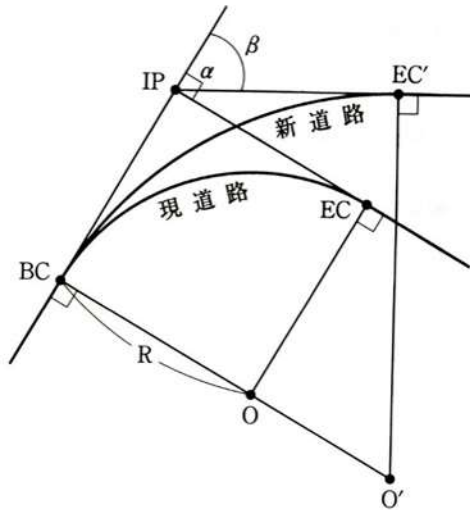


図 25

1. 1,016m
2. 1,039m
3. 1,065m
4. 1,088m
5. 1,114m

(解答) [No.25] 路線長

1) 現道路の接線長

$$TL = R \cdot \tan(\alpha/2) = 600\text{m} \times \tan 45^\circ = 600\text{m}$$

2) 新道路の接線長 TL は旧道路の接線長 TL と同じなので

$$TL = (R + x) \tan\left(\frac{\beta}{2}\right) = (600 + x) \tan 30^\circ$$

$$600\text{m} = (600 + x)(1/\sqrt{3})$$

$$x = 600\sqrt{3} - 600 = 600 \times 1.732 - 600 = 439.230\text{m}$$

新道路の曲線半径は $R' = R + x = 600 + 439.230$ なので、

$$R' = 1,039.230\text{m}$$

ここで、円曲線半径の違いを $x = \overline{OO'}$ とした。

3) 新道路の曲線長

$$CL = R' \beta = 1,039.230\text{m} \times 60 / (180 / \pi) = 1,088.28\text{m}$$

こたえ 4

[No. 26]

境界点 A,B,C 及び D を結ぶ直線で囲まれた四角形の土地の測量を行い、表 26 に示す平面直角座標系上の座標値を得た。この土地の面積はいくらか。

最も近いものを次の中から選べ。

なお、関数の数値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

表 26

境界点	X 座標(m)	Y 座標(m)
A	+25.000	+25.000
B	-40.000	+12.000
C	-28.000	-25.000
D	+5.000	-40.000

1. 2,303m²
2. 2,403m²
3. 2,503m²
4. 2,603m²
5. 2,703m²

(解答) [No.26] 土地の面積

測点	X	Y	X _{n+1} -X _{n-1}	(X _{n+1} -X _{n-1})Y _n
A	25	25	-45	-1125
B	-40	12	-53	-636
C	-28	-25	45	-1125
D	5	-40	53	-2120
			倍面積	-5006
			面積	2503

1. 2,303m²
2. 2,403m²
3. 2,503m²
4. 2,603m²
5. 2,703m²

答え 3

[No. 27]

次の a~e の文は、公共測量により実施する用地測量について述べたものである。(ア) ~ (オ) に入る語句の組み合わせとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

- a. 境界測量は、現地において境界点を測定し、その(ア)を求める。
- b. 境界確認は、現地において(イ)ごとに土地の境界(境界点)を確認する。
- c. 復元測量は、境界確認に先立ち、地積測量図などにに基づき(ウ)の位置を確認し、亡

失などがある場合は復元すべき位置に仮杭を設置する。

d. (エ) 測量は、現地において隣接する (エ) の距離を測定し、境界点の精度を確認する。

e. 面積計算は、取得用地及び残地の面積を (オ) により算出する。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1.	座標値	一筆	境界杭	境界点間	座標法
2.	標高	街区	境界杭	基準点	座標法
3.	座標値	一筆	基準点	境界点間	三斜法
4.	座標値	街区	基準点	境界点間	座標法
5.	標高	一筆	境界杭	基準点	三斜法

(解答) [No.27] 用地測量

a. 境界測量は、現地において境界点を測定し、その (ア 座標値) を求める。

b. 境界確認は、現地において (イ 一筆) ごとに土地の境界 (境界点) を確認する。

c. 復元測量は、境界確認に先立ち、地積測量図などに基づき (ウ 境界杭) の位置を確認し、亡失などがある場合は復元すべき位置に仮杭を設置する。

d. (エ 境界点間) 測量は、現地において隣接する (エ 境界点間) の距離を測定し、境界点の精度を確認する。

e. 面積計算は、取得用地及び残地の面積を (オ 座標法) により算出する。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1.	座標値	一筆	境界杭	境界点間	座標法
2.	標高	街区	境界杭	基準点	座標法
3.	座標値	一筆	基準点	境界点間	三斜法
4.	座標値	街区	基準点	境界点間	座標法
5.	標高	一筆	境界杭	基準点	三斜法

1) アは「座標値」なので、2,5は消える。

2) イは「一筆」なので、4は消える。1,3が残るのみ。

3) ウは「境界杭」なので、3は消せる。ウがわからないときには、エ、オを用いて正解を導けばよい。→要するに、択一は全部分からなくても正解を導ける。

答え 1

[No. 28]

次の文は、公共測量における河川測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 対応する兩岸の距離標を結ぶ直線は、河心線の接線と直交する。

2. 距離標は、努めて堤防の法面や法肩を避けて設置する。

3. 水準基標の標高を定める作業は、2級水準測量で行う。
4. 定期横断測量は、水際杭を境にして、陸部は横断測量、水部は深淺測量により行う。
5. 深淺測量における測深位置を、GPS測量機を用いて測定した。

(解答) [No28] 河川測量

1. 対応する兩岸の距離標を結ぶ直線は、河心線の接線と直交する。⇨準則 374○
2. 距離標は、努めて堤防の法面や法肩を避けて設置する。⇨準則
第 374 条 「距離標設置測量」とは、河心線の接線に対して直角方向の兩岸の堤防法肩又は法面等に距離標を設置する作業をいうので、**間違い**。
3. 水準基標の標高を定める作業は、2級水準測量で行う。⇨準則
第 377 条 水準基標測量は、2級水準測量により行うものとする。○
4. 定期横断測量は、水際杭を境にして、陸部は横断測量、水部は深淺測量により行う。⇨
○
5. 深淺測量における測深位置を、GPS測量機を用いて測定した。準則
第383条 2項
2 測深位置又は船位の測定は、ワイヤーロープ、T S等又はG N S S測量機のいずれかを用いて行うものとし、測点間隔は次表を標準とする。
5 R T K法又はネットワーク型R T K法による観測は、次表を標準とする。○

答え 2